

出会いに感謝

私は、渋谷にありました文科省共済組合宿泊所「銀杏荘」で一人前の料理人を目指していた板前修業の身から華麗なる転身(?)により、昭和48年(1973年)1月に東京大学事務職員として採用されました。当初は慣れない仕事で戸惑い悪戦苦闘したことや、魚を釣ってきたので三枚に下ろして刺身にしてくれなどと頼まれたりしたことが、遠い昔の思い出として残っております。幸か不幸か東京大学以外の機関を経験していない“井の中の蛙”でありましたが、東京大学での約38年間は苦労もありましたがたいへん充実したものであり、本学で学んだこと、

大木 幸夫(総務課副課長)

経験したことを今後の人生に生かしたいと思っています。事務屋ですのでいくつかの部局を異動してきましたが、理学部には平成3年(1991年)4月から3年間お世話になったことがあり、その時の思い出としては40歳以上が参加できた学内ソフトボール大会での2連覇に貢献できたこと、そして若い人にまじり野球やバレーボールを楽しんだことです。そのような思い出のある理学部に再度お世話になり、定年を迎えることができることに喜びを感じています。今日まで大過なく勤務できたのも、多くの先生方、良き上司、先輩、同僚、後輩と出会い、ご



指導・ご協力をいただき支えられながら、ここまでたどり着いたという感謝の気持ちで一杯です。最後にこの場をお借りしてお礼を申し上げるとともに、理学系研究科のますますのご発展と皆様方の今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

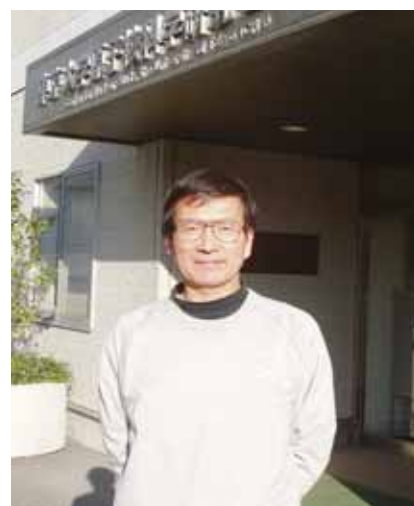
定年を迎えて

山崎 則夫(原子核科学研究センター 技術専門員)

私は、1971年原子核研究所に入所して、1994年原子核科学研究センターに配置換えになり、定年を迎えることになりました。これまでの印象深いことをあげて、定年にあたってのお礼と挨拶とさせていただきます。

私が原子核研究所に入所したときは、F.Fサイクロトロンが終了し、F.Mサイクロトロンが全国共同利用研で稼働している時期で、またS.Fサイクロトロン(S.F)の建設時期でもありました。F.Mサイクロトロンの運転、保守の仕事から始まり、担当者が退職されて初めて真空排気装置を担当し、稼働させることができました。それからS.Fの改良で発振器(MOPA)、計算機制御を担当して思

うようにメカが動かないこともありました。また幾つかの勉強会があり、特に印象深い会がありました。そこで板書したノートは今も大切にしています。貴重な時間を割いて教えていただき、ありがとうございます。その後、原子核科学研究センターに配置換えになりました。すぐ装置の解体が始まり、実験装置を分室(理化学研究所)へ移設、設置、稼働を担当しました。また、超伝導電磁石で常温から液体Heの注液などを教えていただきながら、新しい装置の立上げをしました。分室にきてからもうひとつ装置を担当している速度分離器の維持管理をしていますが、高電圧上昇の方法、絶縁碍子などの改良もしてきました。これら



装置を、最高の性能が出て実験に使えることを目標としてきました。解らないところがまだ多々あり、不足ながらも、無事定年を迎えることができました。これは良き皆さまのご指導とご理解があったことと深く感謝し、お礼を申し上げます。これからは再雇用で勤務いたしますが、引き続きよろしくお願いいたします。